

ダジャレの効用 (2009年1月1+41日号)

(C) Ippei INOUE

暗い世相に一服の清涼剤（寒い？）のようなニュース。

<<asahi.com ニュース>> (2009年1月21日 21時4分)

神奈川県は21日、食堂の食券を偽造したとして、横浜県税事務所（横浜市中区）の男性職員（24）を同日付で停職6カ月の懲戒処分にしたと発表した。県人事課によると、男性職員は昨年4～5月の連休中に、自宅のパソコンとプリンターで、同区内にある県庁舎の食堂の定食用食券20枚（470円分と500円分を各10枚）を偽造。連休明けから6月3日までの間に使った疑いがある。

定食の食券を偽造して停職。最初にNHKのニュースでこれを聞いた時は笑い転げて、自宅の大理石の椅子から転げ落ちそうになったほどだった。

「定食券偽造で停職6ヶ月」。なんと心躍る響き。ネット上の他のニュースではダジャレが強調されていたが、NHKのニュースではそれは隠蔽されていた。しかし、アナウンサーの鼻孔がわずかながら大きく開放されていたことを小生は見逃さなかった。笑ってなるものかと歯を食いしばっていた（にちがいない---アナウンサーってたいへんね）。我が家の大理石のテレビならそこまで観察することができるのだ。

それにしても、人はなぜダジャレを喜ぶのだろう。考えてみれば、知性がまだチンパンジー程度の小さな子供でも喜びそうなことば遊び。無意味といえば無意味。かの名作かいけつゾロリから古典落語まで、老若男女、古今東西、ダジャレをよるこんでいるところを見ると、どうもこれは人間の根源的な感性に訴えかけるところがあるのだろう。

日本語に限った話ではない。アルツハイマー病は、英語では「オールツアイマー」って感じの発音（Alzheimer's disease）なので、Old-timer's disease（「オールド・タイマー＝昔かたぎの人」の病気）とダジャレたりする（ほんとにOld-timer'sだと思っている人も結構いるらしいが）。ある米国人は小生の名前を聞いて、「イッペイ？オーケー、ユーペイ（You pay：お前が払え）」とのたもうた。大理石の財布でひっぱたいてやろうかとも思ったが、うかつにも笑ってしまった。

重要なことに、このダジャレなるもの、かの米国人もそうだが、一番喜んでいるのはダジャレをこいている本人なのである。しかも、性別年齢分布でいうと、ダジャレをこく者は圧倒

的にオヤジであるという社会言語学的事実にも着眼しておこう。まわりを寒々とさせるのもオヤジの得意技だが、その談話方略の一つなのだ（このひとりごとではそんなことは決してない（はずだ））。

あまりにアカデミックに語りすぎて、肩がこってきた。自宅の大理石の風呂にでも入りたいところだが、風邪が抜けきらず、いまでも自宅の大理石のベッドの上でひとりごちている。でも季節は入試シーズン。この時とばかりに働かされる。つらい。